

# かけはし

会報 67号 発行:特定非営利活動法人全国LD親の会 発行人:内藤 孝子  
 事務局:〒 151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-5 パロール代々木 415  
 TEL/FAX:03-6276-8985 E-MAIL:jimukyoku@jpald.net URL:http://www.jpald.net/



## 設立 20 周年をむかえて

**NPO法人全国LD親の会**  
**理事長 内藤 孝子**

今年の2月、全国LD親の会は、設立20年を迎えました。現在、37都道府県、47団体、約3,200名(2009.7現在)の会員が加入しています。

20周年を迎えることができましたのは、各地のLD親の会の会員の一人一人の努力とお力添えをいただいた多くの関係者の皆様のおかげと深く感謝しております。

この20年の間に、発達障害者支援法の施行、学校教育法の改正など親の会を取り巻く環境も大きく変わりました。親の会に集った会員のみなさんの献身的な活動の積み重ねがあったればこそ、子どもたちの苦しみ、生きにくさへの理解が少しずつひろがってきたのだと思います。

しかし、一人ひとりの発達障害のある人たちや家族から見ると、自分や家族に対する支援が充実したという実感はあまりありません。

このような状況を少しでも改善するために、全国LD親の会では、今年度は下記のような事業等に取り組めます。

- ① 発達障害児のための教材・教具データベースの構築と普及事業 (2010年度日本財団助成事業)
- ② 特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業 (文部科学省 平成22年度民間組織・支援技術を活用した特別支援教育研究事業の研究委託)

- ③ 発達障害者支援と親の会やNPOの役割の研究 (社会福祉事業研究開発基金)
- ④ 全国LD親の会公開フォーラムの開催 (札幌、福岡)  
 これらの事業が、これからの各地域での一人一人のニーズに応じた支援の充実に寄与するとともに、各親の会の活動の広がりにつながっていくことを願っています。

昨年、政権交代があり、発達障害を含む障害者施策も大きく転換しようとしています。2010年1月に設置された「障がい者制度改革推進会議」では、我が国の障害者支援施策全体の見直しについて議論されていますが、障害がある人も地域の一員としてともに暮らしていける社会をめざし、しっかりとした制度が作られていくことを願ってやみません。

地域主権がさげばれている昨今です。今まで以上に各親の会の活動が重要になってきています。地域によって、支援の格差が広がることのないよう、お互いに支えあって、一歩ずつ、前へ進んでいければと思っています。

20年の節目をむかえ、役員一同、気持ちも新たに、各会の皆さんとご一緒に切磋琢磨しながらがんばっていく所存です。どうぞよろしくお祈りします。

### 特定非営利活動法人全国LD親の会役員

- 理事長 : 内藤孝子
- 副理事長 : 丹藤登紀子
- 理事 : 大曲千代子、東條裕志、山岡修
- 評議員 : 井上育世、梅野真澄、熊谷辰夫、高橋千歳、  
 多久島睦美、永井弘明、吉田礼子
- 監事 : 沼田夏子、森野勝代

### 特定非営利活動法人全国LD親の会 第3回 総会報告

日時 : 2010年6月19日(土) 12:00~13:15  
 場所 : 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟 研修室 401  
 総会員数46団体中、代表者出席26団体、委任状出席19団体の計45団体の参加の中、第1号議案~第3号議案のすべての議案が賛成多数をもって承認されました。

#### 【審議事項】

- 第1号議案 2009年度事業報告
- 第2号議案 2009年度決算報告および監査報告
- 第3号議案 2010年度役員選任(案)

## NHKハートフォーラム

## 第9回全国LD親の会公開フォーラム

日 時：2010年6月20日(日) 10:00～16:40

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター  
カルチャー棟 小ホール

参加人数：287名(一般:201 親の会:78 来賓:8)

## 【最新情報】

発達障害のある人のライフステージを通じた支援  
～教育から就労まで～

特別支援教育が法律に基づいて本格的に実施されてから3年が経過しました。体制は整備されつつありますが、質的な充実をどうすすめていくかがこれからの課題になっています。

そこで、「第9回全国LD親の会公開フォーラム」は、NHK厚生文化事業団、NHKとの共催で、障がい者制度改革推進本部の動向などの最新の情報を織り込んだ「最新情報 発達障害のある人のライフステージを通じた支援～教育から就労まで～」のテーマで開催しました。

一般参加はNHK厚生文化事業団が窓口になりましたが、1ヶ月前にはすでに満席状態となり、お断りをする程でかなり好評でした。

講演1では、東京学芸大学名誉教授の上野一彦先生より「発達障害のある人のライフステージを通じた支援」のテーマでご講演を頂き、引き続き、丹藤から「しなやかなインクルージョン」についての質問をし、回答を頂きました。

講演2では、障害者職業総合センターの望月葉子氏より「青年期・成人期の課題を考える・働いて自立する生活を実現するために」のテーマでご講演を頂き、引き続き内藤理事長より「合理的配慮」に関する質問をし、回答を頂きました。

午後からは、「特別支援教育・発達障害支援行政の最新情報と課題」をテーマに、文部科学省特別支援教育課・課長の斉藤尚樹氏と厚生労働省障害福祉課地域移行・障害児支援室発達障害対策専門官の日詰正文氏より解説をいただき、引き続き、山岡理事のコーディネーターでトークを行いました。

シンポジウムでは、「自立・社会参加にむけて、今やっておくこと」をテーマに、話題提供と討論を行いました。まず、東京都渋谷区教育委員会教育長の池山世津子氏からは教育行政の立場から、国立特別支援教育総合研究所の梅田真理氏からは教員の立場から、富士屋ホテル株式会社八重洲富士屋ホテルの古賀正道氏からは企業の立場から、内藤理事長からは保護者の立場から、それぞれ、テーマに沿って話題提供をしていただき、それを受け、上野一彦先生を指定討論者として、討論を行いました。

「発達障害のある人のライフステージを通じた支援」についての講話、行政解説、シンポジウムは、長時間でしたが、その分内容の濃いものとする事ができたと思います。

発達障害のある子どもたちが自立や社会参加を目指すためには、一人ひとりのニーズにあった一貫性のある支援を行うことが必要であることが再認識でき、その実現に向けて長期展望に立った適切な支援について考える、有意義なフォーラムとすることができました。

お手伝いを頂きました、関東ブロックの皆様には感謝しています。ありがとうございました。(丹藤)



## 青年の交流会報告

日 時：2010年6月19日(土) 11:00 集合

テーマ:東京メロ(地下鉄)に乗って東京の下町を巡ろう

今年の青年の交流会は交流会と懇親会の2部制で行われました。

交流会はオリンピック記念青少年センターで集合し、築地の場外で海鮮どんぶりの昼食の後、地下鉄博物館を見学しました。さらに、浅草で松本零士先生デザインの遊覧船「ひみこ」に乗船し隅田川を下り、お台場まで行きました。ここで、懇親会メンバーと別れ、新橋で解散というルートでした。かなりハードなルートでしたが、懇親会メンバーも含めて23人の参加者があり、今までにない盛り上がり方を見せました。

一方、懇親会も参加するメンバーはお台場でゆっくりお土産などの買い物をした後に、汐留に移動し、京風のカツ屋さんでおばんざいの食べ放題・飲み放題コースながら、飲むのはセーブしつつ、楽しいひと時を過ごしました。こちらは、懇親会のみ参加者1名も含めて12名参加しました。

今回、非常に多い参加者でありながら特に事故もなく終わりに出来たのはボランティアをしていただいた河村さん、山中さんと参加していただいた青年の方々のご協力によるものと感謝しております。

また、いつか会いましょう。(栗野)

**研修会報告**

日時：2010年6月19日(土) 14:45～16:45  
 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター  
 センター棟 研修室 401  
 講師：中田洋二郎(立正大学)  
 テーマ：家族支援 一親の障害の受容

中田先生は、通所施設で障害のある子どもと生活を共にし、乳幼児の発達相談や特別支援教育の巡回相談とコンサルテーション活動等のご経験と調査研究から「子どもの支援は、まず家族支援から始めなければならない。」という認識を深められました。

障害を知る時の親の感情は、個々に違うのは当然ですが、共通した特徴として、I.ショック II.否認 III.悲しみと怒り IV.適応 V.再起 が時間の経過と共に現れる段階的モデルとして示されました。

- \* 障害のある子どもの誕生は、いわば「期待した子どもの死」として受け止められ、そのために生じる「対象消失」と「喪の作業」がこのような感情の変化をもたらすこと。
- \* 全ての親が、段階的モデル通りではないが、ある程度の時間が過ぎて障害の否認と肯定の心の揺れはなくなり、表面上は落ち着いているかのように見えても、何かのきっかけで崩れ、否定的になることがあること。
- \* 親は心の振り子をかかえており、このことは、「慢性的悲哀」として多くの親に生じる自然な反応であること。

発達障害に関する専門家と家族が、就学・進学において必ずしも意見が一致せず、お互いの葛藤が絶えない現実には、身近によく聞かれます。LD等の発達障害は、障害の特徴が保護者にとっては、「個性」としてのいとおしさと「障害」としての苦しさの相反する感情を持ってしまいます。

紆余曲折しながら、螺旋階段を上るように少しずつ適応していくには、専門家は、障害受容をゴールとして保護者に課すのではなく「肯定的まなざし」を向けることで、段階的モデルの最後には、親は人生観や価値観の転換という人間的成長にいきつくように思います。

60名の参加者からは熱心な質問が続きました。「きょうだい支援」「本人の受容」についても詳しくお聞きしたいとの声が多く聞かれました。(吉田)

**懇親会報告**

日時：2010年6月19日(土) 18:00～20:00  
 会場：国立オリンピック記念青少年総合センター  
 国際交流棟 レセプションホール 3

今回は、外部のゲストの参加がなく、内輪の会となり、43名の会員が参加しました。

美味しいお料理を頂きながらの各会活動紹介は、本音もぼろりと出て、笑いが広がる和やかな会となりました。

懇談の中では、役員選出や会員の世代間ギャップ等運営上の悩みを共有したり、役員として有能な方の親としての素顔を知ることができ、親しみを感じました。

全国の仲間と「悩みながらも進んでいこうよ。」とエール交換ができ、心強く勇気をもらえる時間となりました。

(吉田)

**全国LD親の会公開フォーラム in 札幌**

全国LD親の会の設立20周年を記念して、札幌市で「発達障害のある人のライフステージを通じた支援に必要なこと～最新情報を踏まえ、乳幼児期から就労期までの支援を考える～」をテーマに、全国LD親の会公開フォーラムを開催します。

日時：2010年8月21日(土) 9:50～15:40 (開場 9:30)

会場：札幌市社会福祉総合センター 大研修室

プログラム

- 9:50 開演挨拶
- 10:00 講演 「発達障害のある人の自立に向けて、今できること ～親の会の取組みと地域連携～」  
内藤 孝子 (NPO法人全国LD親の会)
- 10:50 講演 「発達障害のある人のライフステージを通じた支援」  
上野 一彦 (東京学芸大学名誉教授)
- 12:50 講演 「発達障害支援行政の最新情報と課題」  
日詰 正文 (厚生労働省発達障害対策専門官)
- 13:50 シンポジウム 「発達障害のある人のライフステージを通じた支援に必要なこと ～札幌市での取組みを中心に～」  
二宮 信一 (北海道教育大学釧路校)  
吉森 みどり (札幌市保健福祉局保健福祉部)  
大澤 隆則 (就労移行支援事業所「あるば」)  
長田 じゅん子 (北海道学習障害児・者親の会「クローバー」)
- 指定討論 日詰 正文 (厚生労働省発達障害対策専門官)  
内藤 孝子 (NPO法人全国LD親の会)
- 15:40 終演挨拶

# 会員の子どもの構成調査

正会員 46 団体分の集計 (1 団体未集計)

## <総括表>

区分	人 数				男女比		
	男	女	合計	区分比率	前年比	男	女
未就学	37	14	51	1.7%	4.1%	72.5%	27.5%
小学校	592	149	741	24.6%	-8.7%	79.9%	20.1%
中学校	507	146	653	21.7%	-6.2%	77.6%	22.4%
高校相当	431	131	562	18.7%	-0.9%	76.7%	23.3%
高卒相当	840	165	1,005	33.4%	1.8%	83.6%	16.4%
合計	2,407	605	3,012	100.0%	-3.2%	79.9%	20.1%

## <小学校>

区分	男	女	計
小1	43	9	52
小2	65	24	89
小3	101	25	126
小4	120	28	148
小5	126	31	157
小6	137	32	169
計	592	149	741

## <中学校>

区分	男	女	計
中1	163	45	208
中2	168	43	211
中3	175	57	232
その他	1	1	2
計	507	146	653

## <高校相当>

区分	男	女	計
高1 (高専1年)	153	40	193
高2 (高専2年)	125	40	165
高3 (高専3年)	92	26	118
単位制高校	47	17	64
その他	12	7	19
就労・在宅等	2	1	3
高校相当計	431	131	562

## <高校卒業相当以上>

区分	男	女	計
大学・短大	124	14	138
高等専門学校4年～	0	1	1
専門学校	48	11	59
就労(一般)(週3日以上)	127	21	148
就労(障害卒)(週3日以上)	205	37	242
パート(一般)(週2日まで)	10	4	14
パート(障害卒)(週2日まで)	7	3	10
職業訓練校・委託訓練	23	1	24
就労移行支援	54	17	71
就労継続支援(A型・B型)	29	11	40
授産・作業所(旧体系)	26	10	36
その他(ボランティア等)	25	6	31
在宅	112	23	135
不明	50	6	56
高校相当計	840	165	1,005

## 学校種別・在籍状況

### <小学校>

種別	人数	比率	前年対比
普通級(通級利用無し)	305	41.2%	-9.8%
普通級(通級利用有り)	177	23.9%	2.9%
特別支援学級	235	31.7%	-6.0%
特別支援学校	10	1.3%	-37.5%
その他・不明	14	1.9%	-61.1%
計	741	100.0%	-8.7%

### <中学校>

種別	人数	比率	前年対比
普通級(通級利用無し)	337	51.6%	-0.6%
普通級(通級利用有り)	51	7.8%	-7.3%
特別支援学級	212	32.5%	-3.6%
特別支援学校	22	3.4%	-31.3%
フリースクール等	5	0.8%	-16.7%
その他	5	0.8%	0.0%
不明	21	3.2%	-46.2%
計	653	100.0%	-6.2%

<高校生の状況>

	単位制以外						単位制高校						人数計	人数比率
	国・公立			私立			国・公立			私立				
	全日制	定時制	通信制	全日制	定時制	通信制	全日制	定時制	通信制	全日制	定時制	通信制		
普通科	59	11	2	116	0	20	20	5	4	12	2	23	274	48.8%
専門学科 (商業・工業・農業等)	29	4	0	17	0	0	1	2	0	1	0	0	54	9.6%
総合学科	8	1	0	4	0	0	1	0	0	5	1	4	24	4.3%
高等専門学校 (1～3年)	0			3									3	0.5%
高等特別支援学校・ 特別支援学校高等部	138	0	0	7	0	0							145	25.8%
高等専修学校	0	0	0	31	0	0							31	5.5%
専門学校	0	0	0	4	0	0							4	0.7%
フリースクール													3	0.5%
その他													4	0.7%
不明													20	3.6%
計	234	16	2	182	0	20	22	7	4	18	3	27	562	100.0%

	人数	比率
国・公立	285	53.3%
私立	250	46.7%

	人数	比率
単位制以外	454	84.9%
単位制	81	15.1%

	人数	比率
全日制	456	85.2%
定時制	26	4.9%
通信制	53	9.9%

全国LD親の会の取組みに関する説明(障害者関係法律の整備に関する法律案・教科書バリアフリー法に関して)

★「障がい制度改革推進本部等における検討を踏まえて、障害保健福祉施策を見直すまでの間において障害者等の地域生活を支援するための関係法律の整備に関する法律案」が、2010年5月28日提出されましたが、参議院本会議の審議のみをのこして、通常国会が閉会となり、審議未了のまま、廃案となってしまいました。

この法案は、「障害者自立支援法のサービスをうけやすくする観点から、発達障害が障害者の範囲にふくまれることを法律上明示する」とされ、法律に明記することにより、各地域における実際の支援が名実ともに進むことが期待されるもので、私たち全国LD親の会が長年まちのぞんだものでした。

この法案に関して、障害者団体からの反対の声が多く、「全国LD親の会は静観すべき」との声もありましたが、発達障害のある子どもの保護者として、発達障害関係の親の会として、賛成すべき法案であると判断しました。

障害者団体は、障害の種別や置かれた状況により、立場や主義が異なりますので、団体によって、意見が異なることは当然です。自分たちの障害に関係があることであれば、他の団体と異なった意見であったとしても、他団体の立場も尊重しつつ、自分たちの意見は、毅然と表明することが必要であると考えています。

★「教科書バリアフリー法」の制定、「著作権法の一部改正」は、視覚障害や視覚認知に困難を持つ人にとって、極めて大きな前進であり、大変喜ばしいこととして歓迎するとともに、法施行・改正にご尽力いただいた関係者の皆様に敬意を表しています。

全国LD親の会は、発達障害、弱視等の視覚障害、ディスレクシア等による視覚認知の困難、その他の障害のある児童・生徒のために、バリアフリー化された教科書を使った教育支援の輪が広がっていくことは、子どもたちが教育を受ける権利を保障するためにも急務であり、なによりも大切なことと考えています。法律の制定や改正の趣旨が一人ひとりの困難を持つ人の支援に生かされることを望んでいます。

また、上記のような障害や困難を持つ人が、より身近なところで支援を受けられるようになること、複製・デジタル化・音声化等の支援手段についても、多くの選択肢の中から、個々の特性に応じて選択できるようになることが大切です。文部科学省においても、2009年度より「発達障害等に対応した教材等の在り方に関する調査研究事業」などの調査研究が行われているところですが、多様な支援手段の開発や普及が広く進むことを望んでいます。

## 日本発達障害ネットワーク第6回協議員総会 報告

2010年6月13日(日)午後1時～午後2時 日本財団会議室において、日本発達障害ネットワーク(JDD ネット)の第6回協議員総会が行われました。全国LD親の会から山岡(理事・JDD ネット副代表)、内藤(協議員)、丹藤(協議員)が出席しました。

総会は、①2009年度活動報告 ②2009年度収支決算 ③理事ならびに監事の選任について ④2010年度活動計画案 ⑤2010年度予算 ⑥法人化について(任意団体から一般社団法人とする)の審議が行われ、すべての議案が承認されました。

### ■ JDDネットの会員数

2010年3月末現在、正会員17団体・エリア会員48団体・サポート会員62(団体2、個人60)

### ■ 2010年度JDDネット新役員体制

代表 市川宏伸  
副代表 上野一彦 氏田照子(兼事務局長)  
倭文真智子 高山恵子 辻井正次  
山岡修 山崎晃資  
監事 宮崎英憲 牟田悦子

総会に引続き、会員懇談会が行われました。(午後2時15分～午後4時30)

### 【I部】2009年度発達障害関連事業報告会

①国の事業報告:発達障害者支援施策関係資料

～発達障害支援開発事業について～

講師:日詰正文氏(厚生労働省発達障害対策専門官)

②民間団体助成事業報告(日本財団助成事業)

講義:助成金の「基本」「本気」の申請

講師:山田泰久氏(日本財団)

助成事業報告:JDDネット、全国LD親の会、エッジ、アスペ・エルデの会、みやぎ発達障害サポートネットなど

### 【II部】障がい者制度改革推進会議の動向と会員ディスカッション

障がい者制度改革推進会議の傍聴報告、総合福祉部会の報告に続き、JDD ネットとしての取り組みに関して、活発な議論が交わされました。

障がい者制度改革推進会議総合福祉部会では、2013年8月に実施が予定されている新法制定にむけて、議論が進められています。本部会には、JDD ネットから氏田照子副代表が参加され、JDD ネットのHP等にも進捗状況等が掲載されています。当事者団体の一員として、その動向に注目していきたいと思えます。(内藤)

## 日本発達障害ネットワーク第6回年次大会のお知らせ

今年でJDD ネット年次大会は6回目をむかえますが、関西ではじめて年次大会を開催することになりました。

JDD ネット加盟各団体の関西在住の会員が、実行委員となり、実行委員会をたちあげ、準備をはじめているところです。今年は、参加者が一堂に集い、じっくり研修をしようということで、本大会1日、2会場での開催になります。

日時:2010年12月5日(日)9:30～16:45

会場:神戸国際会議場(メインホール・国際会議室)

<http://kobe-cc.jp/kaigi/index.html>

〒650-0045 神戸市中央区港島中町6-9-1

<交通>三宮から市営モノレール「ポートライナー」

10分・市民広場駅下車すぐ

神戸空港から市営モノレール「ポートライナー」

8分・市民広場駅下車すぐ

定員:1,000名

(保護者、教職員、医療関係者、福祉関係者、その他)

参加費:会員団体会員・2,500円 一般・3,000円

当日参加・3,500円

大会メインテーマ:

5年目を迎えた発達障害者支援から見えてくる

将来の展望

大会長:竹田契一氏

(一般財団法人特別支援教育士資格認定協会理事長)

発達障害者支援法が施行されて5年。この間、発達障害者への支援は、教育、福祉、医療、労働の各分野で着実に進んできましたが、各自治体や機関などの取り組みの温度差は広がってきています。そこで、本大会では、関係する諸団体が集い、この5年間を振り返り、将来のビジョンを明確にしていきます。それにより、発達障害者への豊かな支援の実現をめざしていきたいと考えています。

メインホールでは、中田洋二郎氏(立正大学)に「障害受容と家族支援」、野沢和弘氏(毎日新聞)に「障がい者総合福祉法とは何か」をテーマにご講演いただきます。さらに、「当事者からの発信」というテーマでニキリンコ氏と竹田契一氏(大会長)に、「脳科学の最新情報」のテーマで中村和彦氏(浜松医科大学)と辻井正次氏(中京大学)に対談していただきます。また、「発達障害における当事者性と支援」というテーマで宮本信也氏(筑波大学)、田中康雄氏(北海道大学)、高山恵子氏(えじそんくらぶ)の鼎談も予定しています。国際会議室では、教育分野のシンポジウム、労働分野の対談、厚生労働省や文部科学省をお招きしての行政トーク、国会議員をお招きしてのラウンドテーブルも企画しています。

大会プログラム終了後には、隣接する神戸ポートピアホテル最上階のレストランで、懇親会も予定しています。大会の詳細につきましては、JDDネットのウェブサイトに掲載されます。多くの皆様の参加をお待ちしております。

## 平成23年度予算要望書を提出

2010年7月1日、内閣総理大臣、文部科学大臣、厚生労働省大臣あてに「平成23年度予算要望書」を提出しました。

### 内閣府関係予算要望事項

1. 障がい者制度改革推進会議等における検討に、発達障害の当事者・関係者や教育・障害児支援に詳しい関係者を参加させること
2. 発達障害を障害者基本法、障害者自立支援法(障害者総合福祉法)に、きちんと位置付けること
3. 障害児支援については、平成20年7月に取りまとめられた「障害児支援の見直しに関する検討会報告書」の提言も参考にして検討すること
4. 発達障害者を含めた障害者全体への差別を禁止する法律の早期の実現
5. 発達障害者を含めた障害者虐待防止法の制定
6. 国民に対する発達障害への理解、啓発の促進
2. 発達障害の専門医師の養成や保健師等関係者に対する発達障害についての研修の充実
3. 乳幼児から成人までの発達障害に対応できる医療機関の拡充
4. 保育所・保育園における発達障害に対する適切な対応のための諸施策の実施
5. 発達障害者の地域支援体制の拡充:個々のニーズに応じた支援体制の拡充
6. 発達障害支援センター事業の拡充
7. 発達障害の成人のための支援体制の整備
8. 発達障害児者への家族支援と本人支援の地域での提供
9. 長期的な展望に立った発達障害の専門的人材の育成と、専門職の位置づけの明確化
10. 発達障害が「障害者自立支援法」の対象である事を周知・徹底すること
  - (1) 地方公共団体に対する周知
  - (2) 発達障害に対する対応要領の作成・配布や研修の実施
11. 一生涯を通じた支援体制の確立
12. 国民に対する発達障害への理解、啓発の促進

### 文部科学省関係予算要望事項

1. LD、ADHDを対象とした通級加配の人員を計画的に確保していくこと
2. 小中学校および通常の学級における特別支援教育体制の整備
3. 特別支援教室の実現に向けた検討について、時間を置かずに開始すること
4. 発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業の充実
5. 幼稚園における適切な支援体制の整備・人材の育成
6. 後期中等教育における発達障害のある生徒に対する支援体制の整備
7. 大学等の高等教育における発達障害のある学生に対する支援体制の整備
8. 発達障害に対する、社会的理解の向上
9. 教員の専門性の向上、教員への支援体制の整備
10. 学校外の人材・資源・資格等の活用
11. 放課後支援体制の整備
12. 一生涯を通じた支援体制の確立 ー厚生労働省等の関係省庁との連携
13. LD等の発達障害者への情報保障促進のため、引続き著作権法の抜本的改正に向け提言すること

### 厚生労働省関係予算要望事項

#### 【厚生関係】

1. 発達障害の早期発見・早期発達支援のための実施体制の確立

#### 【労働関係】

1. 発達障害を「障害者の雇用の促進に関する法律」の対象に加えること
  - (1) 発達障害者の雇用の義務(雇用率のカウント、雇用義務)
  - (2) 発達障害者雇用開発助成金事業の拡充、条件の緩和
2. 雇用・就業関係機関職員や事業所に対する発達障害関係の研修の充実
3. 相談体制の整備と多様かつ効果的な職業訓練、職場実習制度の充実
4. 発達障害者の雇用機会の拡大
5. 障害者就業・生活支援センター事業の拡充と整備
6. 公的機関における発達障害のある人の雇用の促進

\*\*\*\*\*

紙面の関係上、要望項目のみを掲載しました。要望事項の詳細については、NPO法人全国LD親の会ホームページ(<http://www.jpald.net/>) をご覧ください。

## 特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業

昨年度に引き続き、文部科学省から民間組織・支援技術を活用した特別支援教育研究事業(特別支援教育に関するNPO等の活動・連携の支援)の委託を受け、「特別支援教育支援員、ボランティア支援員の養成事業」を実施します。

### 1. 事業の目的

本事業は特別支援教育支援員やボランティア支援員の養成を行い、質の高い支援員の養成や、発達障害等の障害のある児童・生徒への支援の充実、保護者のエンパワメントを図ることを目的としています。

昨年度の養成講座は、試行として短期間での実施としたこともあり、個々の科目の時間は短く、「もう少し時間がほしかった」という声もありましたが、一流の講師陣による体系だった講座を実施でき、受講生からは高い満足度・高い評価をいただくことができました。

今年度は、学習支援員、支援(介助)員に加えて、ボランティア支援員養成にも取り組みます。学習支援員・支援員養成講座は、渋谷区教育委員会のご協力を得て、渋谷区で4日間、ボランティア支援員養成講座は、大阪市で2日間実施する予定です。

### 2. 養成する支援員の種類、講座

#### ① 学習支援員養成講座 [30 時間程度]

(2010年12月 渋谷区)

特別支援教育支援員として、学校長や担任教諭の指示の下で、発達障害等の障害のある幼児児童生徒に対する介助、学習支援、保護者等に対する相談支援が行えるようになることを目的としています。

#### ② 支援員(介助員)養成講座 [20 時間程度]

(2010年12月 渋谷区)

特別支援教育支援員として、学校長や担任教諭の指示の下で、発達障害等の障害のある幼児児童生徒に対する介助、保護者等に対する相談支援が行えるようになることを目的としています。

#### ③ ボランティア支援員養成講座 [15 時間程度]

(2011年1月 大阪市)

特別支援教育現場における学校支援ボランティア(有償・無償)として、発達障害等の障害のある幼児児童生徒に対する補助的な支援、地域における療育機関での補助的な業務、保護者等に対する相談支援が行えるようになることを目的としています。

## 発達障害児のためのサポートツール・データベース事業



昨年度に引き続き、日本財団の助成を受けて「発達障害児のための教材・教具データベースの構築と普及事業」に取り組んでいます。

### 1. 教材・教具、実証データの公募

サポートツール・データベースの質・量の拡充に向けて、特別支援教育や発達障害者支援に関わりのある学会や士会の会員の皆様から、手作り、市販等の未掲載の教材・教具や、それらを使用した際の実証データを公募中です。多くの皆様からのご提供をお願いいたします。2010年度は、3回(7月・12月・2月)の公募審査会を予定しています。公募の詳細は、全国LD親の会のHPのサポートツール・データベース(<http://www.jpald.net/research/>)の「応募のページ」を御覧ください。

### 2. 新規サポートツールの開発

データベースに掲載されている「遮蔽板」などを段ボール素材で開発し、現在実証中です。段ボールで作るので、個々のニーズに応じたサイズで作ることができます。

新規サポートツールも、2010年10月9日(土)～11日(月・祝)の愛知県立大学長久手キャンパスでの日本LD学19回大会の際、親の会紹介ポスター展示会場に並べる予定です。

### 3. サポートツール全国キャラバン 2010

#### 「教材教具研修会」

教育現場や家庭生活における教材・教具の使い方の工夫とサポートの仕方を検討する研修会「発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた指導・支援の具体的方法」を今年度も3会場で開催していきます。子どものテストプリントの間違え個所や姿勢などから、子どもの特性を分析し、具体的な支援を考えていく内容の研修会です。

第1回研修会は、2010年5月30日(日)、秋田県ゆとり生活創造センター遊学舎において、秋田LD・AD/HD親の会「アインシュタイン」との共催で行いました。親の会会員18名、一般62名の参加がありました。講演だけでなく、ワークショップも行うことで、子どもの特性の理解と特性に沿った支援の道筋は、普段のノートやプリント、子どもの動きや姿勢などからも十分みつけれられることを示すことができました。

#### 【今後の予定】

●2010年11月21日(日)10:00～16:30(9:30開場)

会場:ソフトピアジャパンセンター

共催:岐阜県LD親の会「れんげの会」

●2011年2月6日(日)10:00～16:30(9:30開場)

会場:あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)

共催:「あおぞら」

詳細は、NPO法人全国LD親の会のHPに掲載します。



## 親の会設立準備を進めています！ 和歌山県 大分県

### ●和歌山県親の会設立準備会

2009年9月より和歌山県での親の会設立に向けて、準備会を重ねています。

6月6日(日) 12:30～16:30 に、和歌山市の中央コミュニティセンターで行われた準備会では、下記のことが決まりました。

- ・全国LD親の会に所属する親の会を設立する
- ・2011年4～5月に設立総会をめざす
- ・会の名前を準備会メンバーで決める

設立総会までの役員も決まりました。今後開いていく勉強会や講演会について話し合い、以下の開催が決まっています。

#### ＜相談会＞

2010年9月4日(土)13:00～16:00

参加者：準備会登録者のみ

場 所：中央コミュニティセンター

一般財団法人特別支援教育士資格認定協会(S.E.N.S.の会)和歌山支部会の中村先生、尾崎先生に個別相談をお願いしています。

#### ＜学習会＞

2010年11月6日(土)13:30～16:00

場所：東部コミュニティセンター 2階活動室(大)

定員：60名 参加費：1,000円

講師：山田充先生

(特別支援教育士スーパーバイザー)

子どもや保護者が抱えている困難に対する具体的手立てについて考えます。

(井上)

### ●大分県における親の会設立準備

発達障害のある子どもたちが生き生きと自分らしく自立していけるような社会を目指して、大分県でも親の会の設立準備を進めています。

今年度は大分県教育委員会や関係機関の皆様のご支援を得ながら、「保護者の保護者のための子育てトーク」という座談会を開催する予定です。保護者の皆さんが協力し合える仲間づくりができるよう、九州ブロック各親の会の皆様のご協力をお願いいたします。

(大曲)

## 一般社団法人日本LD学会 第19回大会案内

日 時：2010年10月9日(土)～11日(月・祝)

場 所：愛知県立大学 長久手キャンパス

【大会メインテーマ】「通常学級における特別ニーズをもつ子どもの支援ー子どもの学びを保障する連携ー」

### ◇親の会の企画パネルディスカッション 【会場】H004

日 時：10月11日(大会3日目)10:00～12:00

テーマ：特別支援教育支援員、ボランティア支援員を活用していくためには？

～これからの支援員の養成や活用の在り方を考える～

パネリスト：大城 政之 (特別支援教育総合研究所) 松本 裕子 (渋谷区立富谷小学校)

山岡 修 (NPO法人 全国LD親の会)

コメンテーター：樋口 一宗 (文部科学省) 司 会：内藤 孝子 (NPO法人 全国LD親の会)

(趣旨)

全国LD親の会では、支援員の質的向上に資するため、昨年度から、文部科学省から委託を受け、養成事業に取り組んでいます。今回のパネルディスカッションでは、特別支援教育支援員の活用に関する現状とこれからの方向性、学校・教員に求められること、特別支援教育支援員、ボランティア支援員の活用や養成の方向性等について、討議・提言を行う予定です。

### ◇親の会紹介ポスター展示 【会場】講義棟(南棟・B棟)1階 B110

エントリーされる会は 9月25日までに申込みをお願いします。各会、模造紙1枚程度の大きさのもの1枚で作成してください。事前送付(9月25日まで)または現地持参。申込みと送付先は別途案内します。

### ◇サポートツール(教材教具)の展示 【会場】講義棟(南棟・B棟)1階 B110

サポートツール・データベース事業で、収集・開発した教材・教具を展示します。

### ◇親の会懇親会

10月10日(日) 18:00-20:00 各会でまとめて 9月25日までに申込みをお願いします。詳細は、別途案内します。

# 九州ブロック紹介

## これが自慢です!

### 福岡LD及び周辺児・者親の会 「たけのこ」

こんにちは。私たち「たけのこ」は、アドバイザーの先生方も含め会員数 130 名で、主に福岡市を拠点に活動しています。子ども達は、小学生低学年からは 20 代の青年と幅広い年齢層です。小・中、高、青年Gに分かれた活動と、特性を生かしたサークル活動を行っています。

昨年実施した「スタートライン」(自立支援のサークル)のビジネス講座は、会員の半数以上が受講し、自立に対する意識改革となりました。今年の総会時には、「アカデミックスキル研究会」(サークル)の子ども達による“カフェ”を実施し大好評でした。年 1 回の合同企画もあり、近年は青年本人の話を聴ける機会を持っています。また、3 年前から毎月 1 回、青年 G 担当の“しゃべり場”を開き、悩める親たちの癒しの場となっています。

そんな中、なんと今年！我々「たけのこ」も 20 周年の成人を迎えました。記念行事として、“パンフレット”の作成、“感謝のつどい”の開催、そして秋にはニキ・リンコさん、竹田契一先生をお招きし、“講演会”を開催する予定です。パンフレットには、ご支援頂いている先生方より心温まるメッセージもいただき、「たけのこ」らしい素敵なものが完成いたしました。

また、先日 7 月 4 日には“感謝のつどい”も開催され、大盛況のもと無事に終える事が出来ました。「たんぽぽクラブ」(女の子のサークル)のコーラスの発表もあり、終始なごやかな空気に包まれたひとときでした。

講演会の方も、今着々と準備が進んでおります。これらの記念行事にあたり、それぞれが得意な分野で力を発揮し、みんなで 20 周年を盛り上げて行こうと頑張っています。普段は、親もLD?と思われる私達ですが、ここぞ！という時の団結力は素晴らしく、ここに先輩母達の積み上げてきた 20 年の重みを感じます。

全国の親の会の皆様、こんな私たち「たけのこ」をこれからもどうぞ宜しくお願い致します。

### 北九州LD親の会 「すばる」

北九州市立総合療育センターにて、感覚統合訓練を受けている子ども達の保護者を対象とした勉強会をきっかけに、1991 年「すばる」は発足しました。「すばる(統る)」と

は、「一つにまとまる」という意味で、同じような悩みを持つ保護者が集まり、今から会を作りあげていこうとする思いを込めて、会の名称としました。その「すばる」も来年 20 周年を迎えます。現在会員は、正会員・通信会員合わせて 50 名程になりました。発足当時小学生だった子どもも青年期に達し、就労という形で社会へ出て頑張っています。小さい時から知っている子ども達が、一年一年成長していく姿を見られるのも会ならではの醍醐味だと思っています。

定例の活動としては、専門家を招いた講演会や学習会をしています。一昨年・昨年と二年続いて、一步踏み込んだ「性教育」というテーマで講演会を行いました。反響が大きく、これからもテーマを絞って開催していきたいと思っています。また、子ども達の年齢構成の幅が広くなり、ニーズも多様化してきたため、2005 年よりグループ別の活動もスタートさせ、より密度の濃い活動ができています。また年に二回のレクリエーションでは、子ども達の元気な顔が見られます。異学年の子どもが集まることにより、大きい子は先輩としての自覚が見られる様になり、親も子どもの成長が感じられるひと時となっています。他にサークル活動として、当事者の活動の「元気の会」「スターズ」、親の勉強会の「わんぱくクラブ」があります。

当会も高校・青年に達する子どもが増えてきて、就労・自立という大きな課題が生まれています。個々人の力は小さいけれど、「すばる」だからできる事を、会員相互で確認していきたいと思っています。そのために、教育・就労・福祉の各機関や地域社会と連携していきたいと思っています。

### 佐賀・筑後地区LD・ADHD 及び その周辺児・者親の会「夢気球」

ゆっくり目的に向かって空を飛ぶ気球の様に、みんなの夢をいっぱい乗せてすくすく育って欲しいという願いを込めて名付けました。

結成は 1994 年 1 月ですから今年で 17 年目になります。定例会は毎月第 2 土曜日、1 時 30 分から 4 時まで親、教師、専門家を交えての学習会と同じ時間帯で子どもの療育を兼ねた子どもの会を行なっています。学習会では、情報交換会や専門家を招いての研修会、講演会を行なっています。

また、子どもの会ではボランティアの学生さんと 1 対 1 での対応や、皆で遊ぶ集団活動を行なっています。子どもの会の自慢としては、学生さんが自主的にその日の企画、終わった後の反省の時間を設けて熱心な事と親と一緒に「夢気球子どもの会」サポートファイルを作成し、成長の記録を取っている事です。

親の会の自慢としては、皆さん学ぶ気持ちが旺盛で、学習会やレクリエーションの企画等アイデアを出し合い、積極的に会の運営に参画している事です。わが子の成長

をしっかり見すえながら、社会自立を目指すビジョンが持てる様に、本人も親も自信を持って明るく意欲的な生活を送る事が出来る様に、「夢気球」はまだまだ成長し続けます。

## 「元気塾」

### (佐賀県発達障がい児・者の会) 親の会

#### 1. 会の概要

私たちの会は「発達障がいとその周辺児・者」「その保護者」「ボランティアサークル」からなる自主的な会であり1989年4月1日に「元気塾」として設立されました。

病院の先生が気になる子ども達の学習会として始めた小さな会が、発足から21年たった現在、正会員・通信会員・賛助会員併せて60名ほどとなり、子ども達が自分らしさを出せる居場所として、また保護者も啓発や自助・研修を目的として活動しています。

#### 2. 主な活動

毎月1回の定例会(8月を除く)を主としていますが、パソコン教室・青年部活動・ボランティア学生のためのミニレクチャー会・保護者の懇談会や研修会などを行っています。また、啓発の為に年に1~2回の講演会も開催しています。

定例会では、子ども達は学生ボランティアさんと、レクリエーション活動やスポーツ・デイキャンプ・工作・陶芸・ゲーム大会・餅つき・合宿などを行います。電車やバスに乗ってお出かけ体験もあり、自分でチケットを買ったり食事の注文をしたりという体験もしています。

青年部は当初は保護者による関係諸機関への働きかけを主な活動目的としていましたが、パワフルな青年当事者たちによる「しゃべり場」の運営もはじまりました。

#### 3. 課題と今後の活動

ボランティアの学生さんの減少にともない、これまでの親子完全分離での定例会活動が困難になってきたため、学生さんをリーダーとした親子活動へのシフトチェンジが必要となってきました。それに伴い保護者どうしの自助活動でもある懇談や研修の機会が少なくなってきました。

2008年夏、佐賀駅前にコミュニティカフェPonteを開店したのは、情報発信の拠点として、また、疲れた心のよりどころとして機能していく事を目指したからでした。特別支援教育士の資格をもつ顧問が定期的に来店し、気軽に相談できる体制が整いつつあります。

そこに「その場所」がある。何でもないときには思い出さなくても、つらいときにふと思い出して行くことができる。行けばきっと話を聞いてもらえる。相談に乗ってもらえる。誰かと出会える。そういう場所は、存在していること自体に意味があると考えます。

私たちは、子ども達の笑顔を守ることを活動の第一の目的とし、そのためにも保護者の保護・支援も充実させていく必要を感じています。「元気塾」親の会は、理解と支援のできる親の会を目指しています。

## 長崎発達支援親の会

### 「のこのこ」

のこのこは、現在会員数86人で、今年発足22年を迎えました。長く「長崎LD親の会のこのこ」として活動してきましたが、会の活動の幅の広がりに合わせて、昨年度名称を「長崎発達支援親の会のこのこ」と改めました。

会員の子どもの年齢が、上は30才近い方から、下は小学校入学前と幅広いので、『のこのこルーム(主に小学生・入会間もない会員向け)』『中高生親の会』『青年の親の会』と年齢別に集まり、会員同士で抱えている悩みを聞きあい、相談しあっています。また、『テーマ別勉強会』では、顧問の特別支援教育士スーパーバイザー岩永竜一郎先生を主な講師として、感覚統合理論概論、ソーシャルスキル、感覚過敏についてなど、広く学んでいます。他にも学校の先生に参加して頂いて学校の悩みを相談する会など、さまざまなテーマで、毎回たくさんの会員が参加しています。

近年取り組んでいるのは、子どもたちの余暇への支援活動です。小学生までを対象に、季節ごとに野外活動や工作教室など兄弟も一緒に楽しめる企画を立てて、親子で楽しい時間を過ごしています。中学生以上は子ども中心に、ボーリングやカラオケに行ったり、みんなで食事をする場を設けています。楽しく休日を過ごす機会をつくり、その中で仲間意識を育て、いろんな場面でソーシャルスキルを身につけることができればと思っています。

関係機関・行政とも深く関わり、県や市の会議への出席の機会も多くなりました。病院、学校からの紹介で、相談に来られる保護者も、年々増加しています。これから益々専門の先生方のお力を借りながら、発達障がいを持つ親同士が高めあい、元気になれる場にしていきたいと思えます。

## 絵・イラスト・工作など親の会の子どもや青年の作品募集中!

## 集まれ! クリエーター

今年度より、全国LD親の会のHP(URL:<http://www.jpald.net/>)に、「集まれ! クリエーター」のコーナーができました。このコーナーに掲載する絵やイラスト、工作、書、陶芸などの作品を募集しています。但し、応募資格は全国LD親の会に加盟している各親の会の子どもたちや青年たちに限ります。たくさんの応募、お待ちしております。

詳しくは、全国LD親の会のHP(URL:<http://www.jpald.net/>)の「集まれ! クリエーター」のページをご覧ください。

## ● 事務局より ●

空白県対策の一つとして取組んできた長野県に、長野県LD等発達障害児者親の会「よつ葉の会」が誕生しました。2010年5月23日、長野市で設立総会を開き、正会員=30名、サポート会員=15名で順調なスタートを切りました。6月19日のNPO法人全国LD親の会の役員会で、正会員団体として承認されました。

2010年7月現在、NPO法人全国LD親の会の会員数は、37都道府県47団体 3,200人 となっています。

## ● NPO法人全国LD親の会 活動報告

- 04月15日 サポートツールDB事業の日本財団に成果報告提出(井上育世)
- 04月16日 特別支援教育推進連盟(病障連経由)への意見を提出
- 04月15日 平成23年度予算要望書提出(JDD ネット集約分)
- 04月18日 サポートツールDB事業の2009年度事業完了報告書提出(日本財団)
- 04月22日 かけはし66号発行
- 05月21日 2009年度事業、会計の監査(内藤、丹藤、岩田)
- 05月23日 長野県LD等発達障害児者親の会「よつ葉の会」設立総会・講演会(山岡、沼田)
- 05月25日 障害者の自立支援と就業支援の効果的連携のための実証的研究委員会(内藤)
- 05月27日 「障がい者総合福祉法ができるまでの間の障害者自立支援法改正案」(仮称)に関する緊急要望書提出
- 05月27日 「障がい者総合福祉法ができるまでの間の障害者自立支援法改正案」(仮称)要請活動
- 05月29日 日本障害者協議会協議員総会・政策会議(内藤)
- 05月31日 資産変更届を法務局に提出
- 06月05日 障害者関連法案成立を要望し、参議院議員への要請文を各会に依頼
- 06月06日 和歌山県親の会設立準備会(内藤、清水)
- 06月07日 障害者関連法案成立を要望し、要請行動 参議院議員会館(内藤・丹藤)
- 06月07日 発達障害の支援を考える議連総会参加(山岡・内藤・丹藤)
- 06月13日 JDD ネット理事会(山岡) JDD ネット第6回協議員総会、会員懇談会(山岡・内藤・丹藤)
- 06月15日 全国病弱・障害児の教育推進連合会総会(丹藤・新堀)
- 06月19日 NPO法人全国LD親の会第3回総会、研修会、懇親会(国立オリンピック記念青少年総合センター)
- 06月19日 NPO法人全国LD親の会第5回役員会、監査、第6回理事会(国立オリンピック記念青少年総合センター)
- 06月19日 NPO法人全国LD親の会青年の交流会(東京)
- 06月20日 NHKハートフォーラム・第9回全国LD親の会公開フォーラム(国立オリンピック記念青少年総合センター)
- 06月24日 平成21年度事業報告を東京都に提出
- 07月01日 平成23年度予算要望書を内閣府・文部科学省・厚生労働省に提出
- 07月02日 総合福祉部会「論点表」および推進会議「第一次意見」への意見募集 各会に呼びかけ
- 07月07日 JDD ネットに全国LD親の会の「総合福祉部会論点表への意見」を提出
- 07月11日 特別支援教育支援員、ボランティア支援員養成事業第1回実行委員会(内藤、山岡)
- 07月12日 障害者放送協議会事務局を訪問(内藤、丹藤)
- 07月18日 岐阜県LD親の会「れんげの会」設立3周年記念講演会(内藤、多久島)

## ● 第6回理事会報告

日時:2010年6月19日 22:00~23:00 場所:国立オリンピック記念青少年総合センター

出席者:大曲千代子、丹藤登紀子、東條裕志、内藤孝子、山岡修

### [審議事項]

- 第一号議案 NPO法人全国LD親の会 第5回役員会における審議結果の承認  
第5回役員会における審議結果を審議し、全員一致でこれを承認した。
- 第二号議案 NPO法人全国LD親の会 第3回総会での質疑応答の対応についての協議  
各会に第3回補足説明資料、監査報告を郵送する。